

互いの士気を高める

白石川サッカー公園で「第12回中学生サッカー交流大会」

4月29日・30日、5月3日の3日間にわたり、「佐藤浩杯第12回中学生サッカー交流大会」が白石川サッカー公園で開催されました。大会には県南の12校が参加。本市からは白石中・東中・福岡中の3校が参加しました。

本市から参加したチームの選手たちは、熱のこもったプレーを繰り広げましたが、予選で敗退。決勝は熱戦の末、大河原中学校が優勝しました。県南の中学校の生徒たちの技術の向上などを目的に、白石サッカー協会の発足を記念してスタートしたこの大会。生徒たちは中体連に向け、気持ちを新たに、士気を高めていました。



▲ボールを追う選手たち

こどもたちの笑顔は白石の宝

中央公民館で「第35回こどもまつり」



▲まどあてゲームをする子どもたち

5月13日、「第35回こどもまつり」が中央公民館で開催されました。晴天に恵まれたこの日は、来場者とスタッフ合わせて約800人が参加。屋外にはシャボン玉やペットボトルボウリングなどのコーナー、屋内には押し花しおり作りや人形劇などのコーナーが設けられ、子どもたちの真剣に取り組む姿や笑顔であふれていました。

このまつりには、市内の母親クラブや子ども会育成会、民生委員・児童委員、児童館、ジュニアリーダーなど多くの団体が参加。団体の垣根を越えて、地域が連携して子どもたちの健全育成を応援しています。

優しさの種を心の中にまこう

南保育園で「人権の花運動」種まき

5月9日、人権啓発活動地方委託事業である「人権の花運動」の種まきを南保育園で実施しました。この事業は、保育園や児童館、幼稚園などに花の種や球根を配布し、子どもたちが協力し合って花を育てることで「命の大切さ」や「相手への思いやりの心」を育てようとするもの。この日は、同園の5歳児22人と人権擁護委員3人が参加。園児たちは、マリーゴールドの種を連結ポットにまき、「元気に育ってね」と声を掛けながら水をやりました。まいた種は7月上旬ごろに花を咲かせ、市内の公共施設や福祉施設などに配布される予定です。



▲花の種をまき、優しさの種もまいた園児たち

600匹のこいのぼりが元気に泳ぐ

第9回春の検断屋敷まつり



(左) 白石川の上空を流れるこいのぼり (右) ウッドボウリング大会

4月29日、小原の春の風物詩「春の検断屋敷まつり」が材木岩公園で開催されました。まつりは、大鷹沢子ども太鼓による和太鼓演奏でスタート。だるま落とし競技や紙ヒコキ飛ばし大会、ウッドボウリング大会などのイベントに子どもから大人まで多くの来場者が参加し、小原の春を楽しんでいました。また、同まつり実行委員会では本年3月、恒例行事の「こいのぼり吹き流し」を実施するため、こいのぼりの寄贈を呼び掛けたところ、北海道から九州まで全国から約600匹が応援メッセージ付きで届けられ、白石川の上空で元気に泳いでいました。

力を合わせて園庭を芝生に

白川保育園で「芝生の苗作り」

5月12日、白川保育園の園児の保護者や白川地区の老人クラブ会員など約60人が、白川保育園の園庭で「芝生の苗作り」を行いました。本市では平成22年度、子どもたちの安全や砂ぼこり防止、気温上昇の抑制を図る目的で、北保育園で試験的に園庭芝生化を実施。平成23年度は、大鷹沢・深谷・南保育園と第二児童館などの園庭芝生化を実施しました。

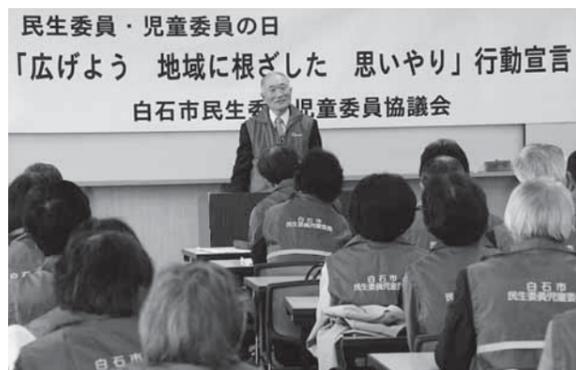
この日は、株分けした芝生を数本ずつ培養土が入ったポットに植える作業を行い、約4,500ポットを完成。6月下旬に園庭への植え付けを行う予定です。



▲緑に覆われた園庭を目指し、芝生の苗作りをする参加者たち

広げよう 地域に根ざした 思いやり

「民生委員・児童委員の日」一斉活動



▲出発式で、地域社会への貢献をあらためて誓った委員の皆さん

全国民生委員児童委員連合会が5月12日を「民生委員・児童委員の日」と定めていることに合わせて、5月15日、市内の民生委員・児童委員約100人が、高齢者宅などを対象とした一斉訪問活動を行いました。市役所で行われた出発式で、白石市民生委員児童委員協議会の日下仁一会長は「地域福祉活動になお一層の協力をお願いしたい」とあいさつ。風間市長も「皆さんを頼りにしている人が大勢います。市内には約1,000人の避難者があり約6割が県外から。近所にいたら声を掛けていただきたい」と、地域のつながりの大切さを話していました。

新緑の白石城で伝統芸能を

第35回城の会

5月5日、「第35回城の会」(同実行委員会主催)が白石城本丸跡地で開催されました。矢ノ目浩孝会長が「子どもからお年寄りまで数多くの団体が参加しています。新緑の白石城で伝統芸能を満喫してください」とあいさつ。大鷹沢子ども太鼓や白石草風会、白石高等学校箏曲部、白石居合研究会、宮城岳風会白石教場、箏曲山田流鎌田佐美音白石教室、直派若柳流宝梅会、生田流箏曲朋美会が、太鼓や箏曲、連吟、仕舞、居合、日本舞踊などをステージで披露。白石高等学校茶道部の茶会も設けられ、訪れた人たちは心癒やすひとときを楽しんでいました。



▲6月2日に碧水園で公演される「橋弁慶」も披露

オリジナル切手で白石をPR

フレーム切手「片倉小十郎の城下町『しろいし』Ⅲ」が販売



(左) フレーム切手 (右) 左から大和田局長、佐藤局長、風間市長

5月1日、斎川郵便局の佐藤哲治局長と白石郵便局の大和田尚局長、越河駅前郵便局の松野勝則局長が市役所を訪れ、オリジナルフレーム切手「片倉小十郎の城下町『しろいし』Ⅲ」が同日から販売となることを風間市長に報告しました。平成21年に始まり3作目となる今回は、春や秋の白石城のほか、すまいる大使の奥州片倉組やポチ武者こじゅーろうなどもデザイン。1シート80円切手×10枚で1,200円。県南4市9町の郵便局で1,000部が限定販売されています。佐藤局長は、「切手を通じて観光PRのお手伝いができれば」と話しました。